

Care Times

おもい

編集 有限会社フジシステム
〒520-1221
滋賀県高島市安曇川町青柳1223番地1
製作・印刷 有限会社フジシステム
発行人 藤井直和
発行 平成20年2月7日
ホームページアドレス
<http://www.biwa.ne.jp/fuji-grp>

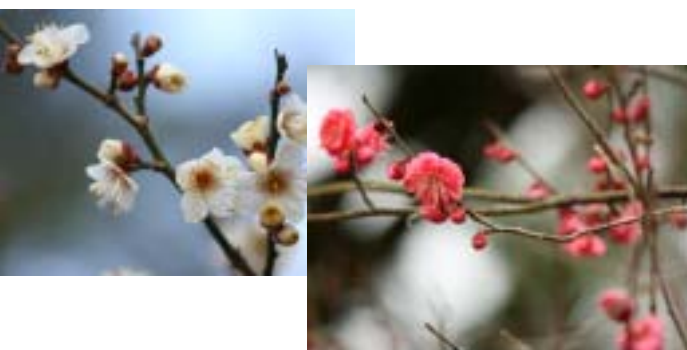
今から約二十二年前、我が家では徘徊・妄言・異食の痴呆症状のある祖母を預ることになった。その頃はまた特別養護老人ホームをはじめ、介護の施設と言えば県内に養老院が僅かにあるだけだった。祖母を預ってからの我が家は、その頃まだ私の子どもも二歳・一歳と小さかったこともあるが、家中が祖母に振り回されパニック状態だった。結局三ヶ月余り家族がこのままでは駄目になるといふ義父の判断で祖母を元の家に戻すことになった。それから僅か四ヶ月後に祖母は亡くなった。病院へ預けるといふ手立てもあつたが、小学生の時に同じような痴呆症状の父の祖母を、たった一人で檻のような病室で亡くした経験を持つ私には病院へといふ選択肢はなかった。あのまま預っていたら長生きできたのではないかと悔やむ日もあつた。この思いは私だけではなく家族全員であつたと思つ

想 い



フジシステム社屋

介護保険制度ができ、いろいろな施設と係り合わせていた中で、あの時にもっと施設があつたらと思わずにいられない。今、個人の尊厳とか、個別ケアと言われているが、その短い介護の中で祖母の人権遵守とか、個別ケアとかができたのだろうか。否、できなかった。祖母が大切なことには変わりはない。しかし、できなかった。知識がなくてできなかったのか、家族ゆえにできなかったのか、今でもわからない。こうして介護の専門施設が沢山できた今、自分ができるなかった、例えば痴呆症状が出て、寝たきりになることも人としての尊厳の遵守や個別ケア、プライバシー保護の遵守をどうか施設



暖かいところへ行くと梅もちらほら。春が待ち遠しいですね。

は特にである。沢山の利用者さんを施設という集団の中で個別にケアするという非常に難しい課題に一生懸命取り組まれている、またそれがいかに大事なことが理解し行動に移されるそんな姿に介護の本質というか、人として接するとはどういふことかというのを考えさせられた発表だった。介護を仕事とすることは到底私にはできないが、コンピュータを仕事と手伝いができないかと思つている今日この頃です。 (小島)

職員さんのつづやま



近江舞子 生活課長
加藤雅昭 トライアル・魚釣り
趣味：オライアル・魚釣り

祖母がしよぶ苑に入所して、お世話になつて二年以上が過ぎた。今までの間に何度か辞めようと思つたこともあつたが、顔を助けてくれるお年寄りがあつた。祖母の介護を続けることに決めた。祖母の介護を続けることに決めた。祖母の介護を続けることに決めた。

祖母がしよぶ苑に入所して、お世話になつて二年以上が過ぎた。今までの間に何度か辞めようと思つたこともあつたが、顔を助けてくれるお年寄りがあつた。祖母の介護を続けることに決めた。祖母の介護を続けることに決めた。祖母の介護を続けることに決めた。

ちょっと便利な介護用品いろいろ

切るたびに音が響くカスターネットはさみ



握力の弱い方でも使えるみんなのはさみ



手元で音が聞こえます。高齢者が聞き取りにくい高音域2~4キロヘルツが明瞭になります



雪道・アイスバーンでの安全歩行にスノーウォーカー



掲載の商品は楽天市場で見つけました

個別ケア対応システム

パーソナルケアシステム想(おもい) 4月発売予定!!



- 排泄パターン把握表
- 個別月間排泄実績一覧表
- 月間個人別介護・看護ケース一覧表 (摂取量・シーツ交換・入浴各実績含む)
- 入浴予定表
- 日別(ユニット別)ケース記録表 (介護・看護・特記)
- 月別(個人別)ケース記録表 (介護・看護・特記)

編集後記

長年、福祉施設で仕事をさせていたでいておられる方、いろいろな介護に対する思いを聞き、是非その思いを広く皆様に知っていただくことになりました。県内各所の施設長さんや職員さんの思いを紙面に載せていきたいと思います。今回は、近江舞子さんにお話を伺いました。介護に対する思い、福祉社会に対する思いがあふれていることなづく「やっぱり」とうなづくことあり、「ああそうなのか」と気づかされることありのインタビューでした。これから県内各所を回りたいと思つていきます。どうか皆様ご協力をお願いいたします。

近江舞子しょうぶ苑 苑長の村田憲治さんに、1.施設の特長について
2 開設以来の喜びと、ご苦労について
3 業務で力を入れておられる部分について
4 目指しておられる介護について
5 今後の施設の目標と課題についての5点について、お話を伺いました。



近江舞子しょうぶ苑
村田憲治苑長

インタビュアー
まず最初に施設の特徴についてということでお話を頂きますでしょうか。

苑長
そうですね、まず、親父の土地を相続しましたが、この土地が何か人のためにならないかというふうな形で計画したわけです。町の中ですが、猿も出るような、そういう自然環境が良くて立地が良いというところだろうと思います。

インタビュアー
開設以来の喜びと苦労についてお聞かせください。

苑長
創設からです。非常に苦労しましたのは組織化ですね。我々職員だけではなかなか運営していけませんので、例えばボランティアの会を組織化したり、或いは後援会を組織化しました。家族会を組織化したりでした。最初は特に後援会は住民の方々から、なぜそういう形なのかということような色んな反発があつて、総会を開いて色々検討しました。それがようやく稼働し家族会、役員会ができたわけです。そういう組織が出来たというのは、我々には非常に強みだと思えます。しかも、ボランティアさんが入ることによって一つのサービスが出来ます。毎日のようにボランティアさんが来てくれています。

インタビュアー
そうですね、確かにこちらはボランティアさんがよく来られていますね。

苑長
そうですね、火曜市あり、土

曜のふれあい喫茶あり、業務援助新聞発行まであります。それと我々も、新聞発行とホームページこれも職員が作っているわけです。カタログがわりで皆が開けられて解るようにしました。苦労といったら、今この施設でもそうですね、けれども人材確保ですね。介護報酬が2回下がり、その中でみんな正職にしたいんです。ところがなかなか全ての人を正職という訳にはいきません。特に夜勤というのは非常にしんどい職種ですから、



(近江舞子しょうぶ苑玄関付近)

夜勤が出来る職員は正職に思っています。人材確保が非常に難しいなと思ってるんです。

インタビュアー
業務で力を入れておられる部分は、どのようなところでしょうか。

苑長
利用者の顧客満足度、これは勿論のことです。そのための意見箱も設けていますし、苦情が入った場合には、苦情情報を玄関に貼り付けて発表するようにしています。毎朝の朝礼では利用者さん「はい、にこ、ポン」をしながら職員に言っています。「はい」と返事して「にこ」と「笑って」「ポン」と動きなさいと、「ちよっと待ってね」は駄目なんです。それと「おとつさん、おかあさん、本当にありがとつございませう」と言って仕事に入るわけです。まず利用者満足、それと職員満足。職員が満足しないといいサービスは絶対出来ません。それと経営基盤の確立。この3つがガッツリ合わない、どれか一つ外してもだめなんです。職員には、毎年十二月に異動希望調査というのを実施しているのですよ。これは今年の反省と来

年の抱負ということ、原稿用紙2枚ですね。それで大体解るんですね。法人に対してどういうことを考えているのか。苑に色々委員会がありますけれど、委員会について思つこと、法人について思つこと、希望すること。また辞めるのか辞めないのか、どういうところへ行きたいのか、そういうことも聞き出すですね。聞き出すと何か書いてもらうのです。必要なものには投資して、必要のないものは辛抱していただく。それと、もう一つは業務の改善ですね。出来ることは自分等で作っていく、わざわざ職人さんを呼ばずにですね。それは職員が働き易い職場でもあります。

インタビュアー
退職するかどうかまでお聞きになるといふのは、職員さんに対する苑長の厳しさと愛情というものが両方あるようなことが反映されてますね。

苑長
出来る限り希望するところに移動してもらいます。それをすることによっていわゆる介護のブランド力ですか、よそとの差別化をし

ていかないと思っているのです。

インタビュアー
先ずは人材ありきというふうなことです。

苑長
それは当然ですね。人が財産です。その人がサービスしていくのですから。その人が不平を持っていたら、いいサービスが絶対出ないですね。そこで職員に自己啓発して勉強してもらわないといかんわけです。

インタビュアー
目指されている介護は、どのような介護でしょうか。

苑長
要は家庭に在るような介護ですね。家の継続の介護。それと自分の両親、親のようについで。職員の親戚等が多いんですよ。だから家庭に在る延長ですね。家ではどうしているのかということをお話して思つたんですね。今本当に人数が増えてきていますから、そうすると、個別じゃなしに集団でサービスしていいこととされますが、そうではないのです。やっぱり一人一人起きる時間も違う、寝る時間も食事も違う、全て違うんですね。

だから、そういう家庭に在るような介護ですね。そういうことが出来ればなと思っています。

インタビュアー
個別ケアをという方向ですね。

苑長
そうですね。それと安全な事故のない、或いは感染症のないように。それと明るい返事と素直な心ですね。人の心を思いやる習慣、その人を好きにならないといふ介護はできません。その人を好きになるような何か良いところを見つけてですね、そういう気持ちで介護をしていただいたらいいサービスが出来るのではないかなと思えます。ここは非常に自然環境が良いのですが、苑でも犬、鳥を飼っています。利用者が本当にピーちゃんピーちゃんと言って鳥を可愛がられます。人を育てて、強い組織を作つて熱い仕事をして、理念に沿つて光明化、みんなを明るくするといふ、社会を明るくするといふ、そういう理念で僕はやってきたわけです。

インタビュアー
今おっしゃった、光明化というのは光明るいということですね。

苑長
宗教色が入っているということをお話する。それで良いということなんです。新人職員に全部理念を説明するのは、というのは、みんなを明るくしていかなければどうするんだと。光を与えて良いところを見て、僕はそういう形で理念に基づいて施設をつくりました。

インタビュアー
今後の施設の目標と課題については、いかがですか。

苑長
あつたかホームというのがあつたかタウンというのは街づくりにです。その拡大なんです。あつたかタウンというのは街づくりにです。それは障害者、小中



(和室コーナー)

学生、老人そういう人が一緒になつてそこで楽しめるという。健康老人ですね。これから要支援になられる前の前の、そういう人が一緒に、それが助け合う街づくりにならないかということ、色々検討したのですが、今のところちょっと中断している状態です。しかし僕はやりたいなと思つています。それからもう一つ、逆デイサービスもできるんじゃないかと。それがみんなで協働すると街づくりにつながる。南小松がそういう福祉の街づくりというか、そういう形になれば楽しいじゃないかと思つているのです。高齢化はこれから、まだまだどんどん進みますね。仕事を終えてリタイヤすると仕事がないということだまらならしいですね。そういう方が見えになられて関わっていたら色々なことに参画していただいて生きがいになるのです。だからそういう生きがい作りも一つです。今、子育てのケアワーカーが多いですね。その中で無認可の保育が出来ないかと思つているのです。施設が本当にこの地域の財

産と思つていただいでアドバイスいただき、誰が来ていただいても見ていただいても、ここが悪いぞと指摘を頂いたら改善していきます。本当にこの施設が地域住民の財産だと思つていただけたら、安心もしていただけますし、応援もしていただけます。そういうことになつてくれればいいかなと思つています。

インタビュアー
長時間、ありがとうございました。



(ディールーム)